

特集「より豊かで安心・安全な社会を実現するための コラボレーション技術とネットワークサービス」の 編集にあたって

櫛山 淳雄^{1,a)} 塚田 晃司^{2,b)}

近年スマートフォン等の携帯端末が急速に普及し、新たなコラボレーションシステムやネットワークサービスが登場してきている。その一方で、携帯端末の普及により、セキュリティ等の問題も現れてきた。また、東日本大震災において、インターネットや Twitter に代表される情報通信技術は大きな役割を果たした。それとともに、未曾有の災害に直面して情報通信技術が果たすべき新たな課題も明らかになった。このような状況認識から、私たちの社会・地域、日常生活、ビジネス、教育・学習などさまざまな場面を、より豊かで快適にし、より安心・安全にするコラボレーションシステムやネットワークサービスの研究開発をいっそう推進していくことが求められると考えた。

本特集号では、より豊かで安心・安全な社会を実現するためのコラボレーション技術とネットワークサービスに着目し、分散コラボレーション、ユビキタスコンピューティング、ソーシャルコンピューティング、知識・情報共有、教育・学習支援、医療・福祉のためのネットワークサービス、防災・減災のためのネットワークサービス、セキュアなネットワークサービスなどに関する論文を募集した。

本特集号には 31 件の論文が投稿された。2012 年 4 月に第 1 回編集委員会を開催した。この委員会で投稿論文が特集号のテーマに合致しているかを審議し、30 件を対象として査読を開始した。2012 年 6 月に第 2 回編集委員会を、2012 年 10 月に第 3 回編集委員会を開催し、慎重な審議の結果、最終的に 14 件の論文を採録した（採録率 47%）。

本特集号では、ソーシャルコンピューティングシステムやそこで交わされるコミュニケーションの分析、組織における知識伝承支援、セキュリティ対策支援、電子トリアージ訓練システム、多言語コミュニケーション支援、遠隔にいる人同士の共食場面を扱った研究、Web 上でのコミュニケーションを円滑に行うための手法、屋内歩行者の位置推

定、クラウド上での教育支援といった、より豊かで安心・安全な社会を実現するためのコラボレーション技術とネットワークサービスに関するすぐれた論文を掲載することができた。

今回残念ながら不採録になった論文の中にも興味深い内容の論文が多くあった。著者の皆様には、ぜひともご研究を継続され、再投稿されることをお願いしたい。

最後に、本特集号発行のためにご尽力いただいた編集委員の皆様ならびに査読委員の皆様、学会事務局に深く感謝申し上げます。

「より豊かで安心・安全な社会を実現するためのコラボレーション技術とネットワークサービス」特集号編集委員会

- 編集長
櫛山淳雄（東京学芸大学）、塚田晃司（和歌山大学）
- 編集委員
市村 哲（東京工科大学）、井上亮文（東京工科大学）、井上智雄（筑波大学）、大平雅雄（和歌山大学）、岡田謙一（慶應義塾大学）、緒方広明（徳島大学）、岡本昌之（東芝）、小川剛史（東京大学）、金井秀明（北陸先端科学技術大学院大学）、金子 聡（日本アイ・ピー・エム・サービス）、葛岡英明（筑波大学）、糸 照宣（富士通研究所）、小林 稔（NTT）、齊藤典明（NTT）、酒井三四郎（静岡大学）、高橋正道（富士ゼロックス）、多田昌裕（ATR）、宗森 純（和歌山大学）、由井蘭隆也（北陸先端科学技術大学院大学）、吉野 孝（和歌山大学）、米田貴雄（三菱電機）

¹ 東京学芸大学
Tokyo Gakugei University, Koganei, Tokyo 184-8501, Japan

² 和歌山大学
Wakayama University, Wakayama 640-8510, Japan

a) hazeyama@u-gakugei.ac.jp

b) ktsukada@sys.wakayama-u.ac.jp